

③首都高速湾岸線臨海副都心出入口の立体化整備事業

授賞機関 首都高速道路株式会社 東京東局

キーワード 仮出入口、近接構造物、景観配慮

全建賞審査委員会の評価ポイント

首都高速湾岸線臨海副都心出入口と新しく整備される国道357号との立体化事業。大都市臨海部の稠密エリアにおいて近接構造物に配慮しつつ施行した点や、仮出入口を設けることで、出入口閉鎖によるサービスの低下を防ぎつつ施工した点が評価された。

1. はじめに

首都高速湾岸線臨海副都心出入口は、首都高速湾岸線と国道357号(四種道路)を接続しており、国道357号(三種道路)として計画されている道路用地を使用して暫定的に供用していた。今回、国道357号(東京港トンネル事業)の整備が始まったことにあわせて、既存アクセスを確保するため立体化整備事業が行われた。

立体化整備にあたっては、仮出入口を確保しながら、国道357号(東京港トンネル事業)の整備を妨げないよう相互調整し事業を推進した。臨海副都心入口は2017年3月22日、臨海副都心出口は2018年12月26日に立体化整備が完了した。

2. 事業の概要

首都高速湾岸線は首都圏の人の移動・物流を担う超重要路線である。また臨海副都心は大型商業施設や観光施設が立ち並び、平日平均で入口約5,000台、出口約6,000台と多くのお客様に利用されている。出入口を長期通行止しながら工事をすることは、物流への影響およびお客様サービス低下を招くため、仮出入口を確保しながら立体化事業を進めた。

臨海副都心出入口は、国道357号(四種道路)、首都高速湾岸線に挟まれているとともに、橋梁上空にはウエストパークブリッジ、地下にはりんかい線が近接している。また埋立地であるため軟弱地盤という悪条件のもと設計、施工双方において多くの制約を受ける中、構造を成立させ近接構造物へ影響を与えないよう配慮しながら施工した。

立体化した橋梁は、将来の維持管理にも配慮している。国道357号上となるため、恒久足場を入口側に設置した(出口側は計画のみ)。これにより、国道357号の交通規制をせず点検を容易に行うことができる。恒久足場の外観は都市景観に配慮し焼付塗装により表面処理したステンレス材を採用している。このように、お客様への影響を最小限にしつつ、近接構造物への影響や維持管理、

都市景観に配慮しながら、臨海副都心出入口を新設・立体化した事業である。



臨海副都心出口の桁架設の様子

3. 事業の成果

本立体化整備事業により、首都高速湾岸線と臨海部へ従来と同様アクセス可能となり、臨海部の交通網・利便性が確保される。



臨海副都心入口完成の様子

4. おわりに

首都高速湾岸線臨海副都心出入口立体化事業は2014年4月9日に仮入口を移設してから2018年12月26日の出口開通まで約4年8か月で完成した。2019年6月に国道357号東京港トンネルも全面開通し、首都高速湾岸線、国道357号の2ルートが確保され空港へのアクセス、湾岸部地域の物流拠点へのアクセス強化が図られた。

賛助会員 (株)エイト日本技術開発、(株)奥村組、東亜道路工業(株)、(株)NIPPO、日本工営(株)、日本ファブテック(株)